

SEG 英語多読 授業見学 レポート

子ども向けの絵本を使い 情景を英語で理解する

英語を学ぶなら、読書を通じて楽しく学びませんか？



英語力を身につける方法として、「多読多聴」という学習法が注目されている。その学習法に早くから取り組んでいるのが、理数系に強い塾として定評があるSEGだ。大量の読書や外国人との豊富な会話を通して、楽しみながら英語の4技能が身につくだけでなく、大学入試にも対応できる力を獲得することもできる。そんなSEGで中1クラスの英語多読の授業を、2回にわたってレポートする。

英作文を通して 基本的な表現を学習

SEGの英語多読の授業は、主に日本人講師が担当する多読パートと、外国人講師が担当する外国人パートの2つがセットになっている。今回レポートするのは、中1中級クラスが多読パートの方だ。

授業開始時間の5分ほど前から、担当する松野先生が教室に入ってくる。生徒は男女同数の10人だが、先生が入ってきたからといって緊張するわけでもなく、スマホゲームをしている男子生徒もいれば、集まって談笑している女子生徒もいる。このゆるやかな雰囲気も、生徒がのびのびと学べるSEGの大きな魅力の一つといえる。

松野先生は、一人ひとりが持っている「読書記録手帳」のチェックを始める。「読書記録手帳」とは自分が読んだ本のタイトルと、その本の語数、これまでに読んだ本の累積語数、読んだ本の感想を書き込む手帳で、英語多読を受講する生徒全員が持っている。自分がどれだけ本を読んだかがひと目で分かるようになっている。

授業開始時間になる。松野先生が「じゃあ、時間になりましたので、授業を始めます」と言うと、生徒たちはさっとスマホをしまい、自席について先生の話を聞く態勢になっていく。このメリハリも気持ちいい。

最初は英作文だ。先生がプリントを配り、「先週授業で習った英作文をきれいに書いてください。先週休んだ人は、初見で頑張って書いてください。その言葉を合図に生徒たちは真剣なまなざしで英作文に取り組む。英作文は5問だ。できた生徒が手をあげると、チューターが回収・採点していく。同

時に、2枚目の英作文プリントが配られ、さらに5問の英作文に挑戦することになる。しばらくするとその解答・解説が配られ、自己採点を行う。

その間、松野先生は生徒の机を回りながら、でき具合をチェックしていく。そのとき、ある生徒から「先生、なぜhasじゃないの？」と質問が飛ぶ。先生は「ナイス質問。同じ間違いをした人があるかもしれませんね」と、ホワイトボードにlike→likesと書き、その下にhave→と書いてから、「hasとなりそうだけど、分かる人いる？」。別の生徒が「has」と答えると、最初に質問した生徒は「それ過去形じゃないの？」。先生が「昨日ペンを持っていたなら？」と投げかけると、さらにまた別の生徒が「had」。「ああ」と最初の生徒が受けて、松野先生の「もうこれで忘れないね、haveはhasにならないよと覚えておこう」で締めくくった。一人の気づきを取り上げて、クラス全員の理解につなげることで、強く印象に残しているわけだ。

過去形の使い方も 本を通して学ぶ

英作文が終わると、いよいよ英語の本を読む時間だ。中1の場合は、全員で同じ本を読む時間が入る。この授業で取り上げたのは3冊の絵本。いずれもORTと呼ばれる、イギリスの大半の小学校で採用されている「国語」の教科書シリーズだ。

最初の本はKipper's Balloonで、裏表紙の要約文Kipper loses his balloon.をみんなで読んでから、先生は「losesって何となく想像できる？」と投げかける。そのうえで、絵本に書かれている文章を読んだCDを再生し、絵本を見ながら英語の音声を聴く「リスニング」が始まる。生徒たちは絵本を見ながら、音声を聴きながら情景をインプットしていく。

「リスニング」が終わると、松野先生は「このstatueって何か分かる人いる？」と質問。ある生徒が「銅像？」とつぶやくと「そう、像だね」と、難しそうな単語の意味を解説していく。単語の意味を日本語で説明するのではなく、絵や状況を通じて分かりにくい単語の意味を直接理解させていく。

続いて絵本を見ながら、CDの音声のあと、同じ文章を口に出して「リピート」する時間になる。リピート後は、文章によく出てきた動詞の過去形についての復習だ。この本には、went, bought, saw, flewなどの過去形が登場しているが、先生はそれらをホワイトボードに書き、生徒にその現在形を答えさせて過去形をインプットしていく。

最後に、CDから音声流れたら、すぐにその英語を口に出す「シャドーイング」が行われる。1冊の本に対して、①聴きながら読む、②リピートしながら読む、③シャドーイングしながら読むと、読書を3回繰り返し、あわせて大切な表現を復習していくことで、英語の表現を音と文字の両方から身につけていく学習スタイルのようだ。

多彩な英語表現を 絵を通して理解する

2冊目のタイトルはSpots!。「これ読める？何だと思う？」との先生の質問に、絵を見た生徒から「水ぼうそう？」との声上がる。「どんな感じなのかな、

まずお話を聴きましょう」と同じように「リスニング」からスタートしていく。

聴き終わると先生は「水ぼうそうばいよね。でも、Paul先生に聞いたところ、子ども向けの絵本に病名を出しても分からないから、ぶつぶつくらいの意味でいいんじゃないかな、spotsはぶつぶつ全般をあらわす言葉だから、と言われました」と説明。こんなやり取りを通じて、英語独特の表現を覚えていくわけだ。

「リピート」が終わると、8ページに出てきた表現、Dad looked after everyone.を取り上げて「looked afterってどんな感じかな？」と先生。「世話する」と生徒が答えると、「一発目から正解が出ましたね」と続け、「3月に読んだこの本覚えてる？」とある絵本を見せた。覚えている生徒がほとんど。「すごい。じゃあ、最後のページが思い浮かぶ人は？」やはりほとんどの生徒がうなずく。「お母さんがどろまみれになった」と答えた生徒に向けて、「だったら最後のセリフ覚えてる？」「Look at me.」「すごい、半年も前の本なのに覚えているなんて、みんな素晴らしい」とほめながら、look atとlook afterの表現の違いを伝えていく。

「シャドーイング」後、ある生徒から「先生、What a job!の最後の疑問符みたいなのは？」と質問が飛ぶ。先生は「ナイス質問。どんな感じだと思う？」とクラスに質問を投げかける。ある生徒が「仕事が多い」と答えると、「そう、なんて大変っていう感じかな。これは日本語だと感嘆文というんだけど、いいところに気づいたね」と、やはりクラス全員で意識化させていく。

3冊目のKipper's Birthdayも同様に3回読み、気になる表現を取り上げていく。ここではWhat a mess!という表現に注目。2冊目の本で話題になったWhat a job!という表現と関連させ、また以前に取り上げた絵本でもまったく同じ表現があったことなども言及しながら、messの意味を定着させていく。「この本でWhat a mess!と言った原因は分か

る？」と先生が質問すると、「お父さんがサンドイッチに気を取られたから」と生徒。きちんと本の内容を理解していることも確認していく。

一人ひとりに合わせた 個人的なアドバイス

最初の英作文に10分、3冊の本にそれぞれ10分ずつ時間をかけて、ここまで40分が経過している。これからは、「個人読み」と呼ばれる、一人ひとりが別々の本を読む時間になるが、その前にワークブックの指定されたページの問題を解いて、自己採点を行うという作業が入る。2〜3分で終わって、いよいよ多読の本を読むのである読書に突入していく。

読むべき本は、あらかじめ前の授業の時間に宿題の分も含めて配られている。黙読したあと、付属のCD音声を聴きながら、リピートなり、シャドーイングなりをして、英語を口にしながら読んでいくことが推奨されている。そのため、教室には個人用のCDプレーヤーが常備されており、授業開始前に各自の机に用意されている。そこに自分のイヤホンを差し、聴きながら、話しながら、英語の本を次々に読み進めていくわけだ。

この多読の時間を使って松野先生とチューターが、ワークブックをチェックしたり、採点したプリントを返したりしていく。松野先生は、生徒一人ひとりの机を回りながら、たとえば「この丸つけはいいね。自分で間違った部分を分析しているところは素晴らしいね」とほめたり、「難しかった本はあった？」「この表現分かりにくかった？」などと質問しながら、個々の学習の進捗状況を把握している。全員での一斉本読み、個人での本読みに加え、こうした個別のアプローチを行うことで、生徒の力を確認して次の授業につなげていくのだろう。

最後に、外国人パートの授業を補完するような、文法事項の理解を促すプリントも配布。多読パートと外国人パートの両方を連携させながら、英語の総合力を高めていくプログラムの一端も垣間見られた。

簡単な本から始めて、たくさん本と一緒に楽しみましょう!



SEG 英語多読

受講生の声

中学受験が終わってすぐ、中1の春から受講している生徒のみなさんは、どんな思いで授業を受けているのでしょうか。受講を思い立ったきっかけとともに、現在の状況や将来への思いなどについて聞いてみました。

高3の姉に刺激を受けて受講を決めた 知っている本も改めて英語で読みたい

高3の姉がSEGの多読の授業に通っていて「すごく英語が身についた」と話していることから、自分でも英語の本が読めたら嬉しいと思い、母と相談して受講することにしました。まだ半年ですがかなり英語が読めるようになったと実感しています。多読の授業では、単語の意味は調べませんが、それでも結構単語を覚えられます。学校でも英語の本を読む時間がありますが、そのときはみんなより速く読めるし、内容もきちんと理解できていると思います。日本の昔話とかディズニーの本など、これまで日本語で読んだ本も改めて英語で読んでみたいと思っています。

◆ R.M. さん



単語の意味を推測して考える力がつき 学校の英語の成績も上がった

英語の本を読むだけで英語が身につくなら楽しそうだなと思って通うことにしました。実際、授業は楽しいし、楽しんでいるだけなのに学校の成績は結構上がり、本当にその通りだと思いました。分からない単語の意味については、辞書を引かず、絵やそれまでの状況から推測していくことになりました。ですから、自分で単語の意味を考える力は確実に上がったと思います。化学分野の話題に興味があるので、英語を読む力を高めて化学に関する英語の本をたくさん読んでいきたいと思っています。将来的には化学の学術論文の読破などにも挑戦したいと考えています。

◆ M.S. さん



https://www.seg.co.jp/

03-3366-1466

【月～金】14:00～21:00 【土】13:00～21:00
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-19-19

中学1年～大学受験
科学的教育グループ

